提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

休符のまち ～まもなく、三河安城に停まります～

〈提案の趣旨〉

定刻通りに通過する駅、三河安城。JR 東海道新幹線、東海道本線はローカル線ではないため、三河安城駅に降りる必要性があれば、必ず人は集まる。三河安城駅に停車車両が少ないことを逆手にとり、新幹線の路線図を楽譜に見立て、メロディを奏でているようにみえるとし、ほかの駅とは一線を画す、「休符」というアプローチでまちをプロモーションする。メロディには休符が必要不可欠なのと同様、忙しい日本人の暮らしをメロディに例えれば、当然休符が必要なのである。駅周辺に必要な要素である「にぎわい」に加えて、三河安城独自の「息継ぎ」「つなぐ」「メリハリ」「余韻」「めでたい」というポジティブな「休符」要素を盛り込む。

安城市内には、魅力あふれる観光資源、文化が多数存在する。七夕まつりは言わずもがな、三河地方の文化であるド派手な結婚式。また、デンパークは、かつて日本デンマークと呼ばれた安城市の農業文化の象徴であり、田園風景でさえ、“農シャンビュー”と表現し、価値を付加することが可能である。

三河安城は、新幹線駅として安城市民がそれぞれ大切にしている魅力ある文化を連結させ、日本中にアピールする玄関口となるべきなのである。

この度、三河安城にチャンスが到来する。ザモール跡地の大規模商業施設の開業、シーホース三河のホームアリーナ（多目的交流拠点）の建設、新幹線駅南の土地区画整理事業の実施等、今後三河安城を取り巻く周辺の環境が大きく変化する。三河安城の都市再生整備計画は、周辺地域発展の最高のチャンスである。中途半端な整備をするのではなく、道路がいらないなら、なくしてしまうという思い切りが必要である。

安全かつ円滑で、居心地がよく、あるきたくなる「みんなで使える空間」及び「アリーナへの安全でスムーズな動線」を確保するためには、妨げとなる道路の横断は無い方が望ましい。道路ネットワーク上、または、既存建物の建築要件を確保して道路を再配置するべきである。歩道と車道のメリハリである。

アリーナでのスポーツ観戦後、大切にしたいのはそのあとの余韻。その時、その場だけで終わらせることなく、食事ができる場等を用意し、訪れた人に「まんまと滞在させる」仕組みを創るべきである。

まちのデザインの旋律として着目したいのは三河安城駅舎。日本デンマークを象徴する個性的な北欧風の建築物を基盤として、町全体にヨーロッパのおしゃれなメロディを拡げていく。例えば、おしゃれな町並みはフォトジェニックで歩きたくなる⇒景色がヨーロッパみたい！⇒デンパークって何？⇒安城って日本デンマークなの？⇒なぜデンマーク？⇒農業が盛んな所なんだって～と安城の農業文化(Agriculture)に興味を抱かせつつ、魅せる“農シャンビュー”づくりと農家の意欲へとつながる。

新たな七夕まつりサテライト会場を人々の出会いの場とし、人生の門出をド派手な結婚式や成人式など、まちをあげて祝福するようなイベントをどんどん展開していき、まちをつかいながら地域経済の発展を目指す。三河安城は、さながらメロディとメロディをつなぐ休符の役割を担う。三河ならではの文化を愛し、安城の魅力を発信していくことが三河安城駅の使命である。いろいろできそうでワクワクしてきた。

“三河安城に希望の「ひかり」の「のぞみ」あり” おあとがよろしいようで。